

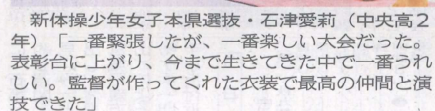
会場の暖炉、後押しされた、新
体操少女など本興遣はれ伸びび
やかな演技を披露した。得意の団体
で21・100点の高得点。個人
12位から「気を取り返し」、3位
を勝ち取った。演技終了後、会
場に響いた大歓声に鳥丸万梨子
主宰（茨城高）は「人生で一
味わったことのない達成感」と
笑顔がはじけだす。

曲はロシア映画からの作品
で、優雅な音楽に出した。落
ち着いた曲調、高い表現力が求
められる、重厚な音が鳴り響き、
演技が始まった。5人がフープ
とクラフの手具を交換しながら
、大きな手具を使い、エレガ
ントな姿を披露した。

手玉の先から笑顔の作り方ま

ハイライト

〈新体操少年女子団体〉演技を終え応援席に手を振る本県選抜＝日立市池の川さくらアリーナ、鹿嶋栄寿撮影



高野真衣（中央高2年）「点数を気にするよりも、自分たちがやり切れればおのずと結果が付いてくと思っていた。きつい練習にやめなくなったときもあった。この結果を出せて幸せ」

西野玲名（中央高2年）「目標としていた表彰台に立つことができ、とてもうれしい。今までやってきたことが結果につながった。最初の手具交換が決まり勢いがついた」

押鴨里奈（水戸二高2年）「個人種目がなかった自分はしっかりやらなきゃいけないと思い、緊張や不安があった。まだあまり実感はないが、目標の表彰台に立つことができ素直にうれしい」

比企野智子監督(44)「選手たちは十分な演技をしてくれた。正直、表彰台は実現するとは思っていなかったが、団体をまとめられたことが結果(3位)につながった」

で突き詰めた。5人が同時に手
員を高く上げて交換する場面も
足を動かすことなく成功させ
た。最高の舞台上軽やかに踊っ
て。

終盤、フープがフロアに落ち
そうになる場面も見られたが、
高野真衣（中央高2年）がフォ
ロー。選手が「力を合わせてや
り切った」と口をそろえる追直

の演技だった。観客にけり大きく手を振り感謝を示すと、大きな拍手が送られた。

激しい練習を乗り越えた。本番までの練習で個人70本、団体100本のミスのない演技をするのが目標だった。日ごころにルムガが設定しきまり、ミスが出れば終われなかった。失敗できないという重圧がかかる。

中、練習時間が午前時から午後9時にまで及ぶこともあったという。

重圧から解放された選手たちは21点台という結果が戻ると、通路で涙を流しながら抱き合ったり喜んだ。それだけの選手は夢の「幸せ」今までの一番つれいしいと充実感たっぷりだった。

(志保敬文)

中、練習時間が午前9時から午後9時にまで及ぶこともあったという。

(志賀敦文)

スポーツ 5面
茨城新聞掲載

(転載については、
茨城新聞社の許可を得ています。)

新体操 笑顔の3位



〈新体操少年女子団体〉3位に輝き笑顔で銅メダルと表彰状を手にする本県選抜＝日立市池の川さくらアリーナ、鹿嶋栄寿撮影

7日の個人で12位だった新体操少年女子の本県選抜は、大きく順位を上げて3位に入った。団体は3人がフープ、2人がクラブを持

ち約2分30秒間の演技を披露。本県選抜の5人は終始軽やかに笑顔で演技し、団体だけでは2位となる21・150点の高得点を出し、目標としていた表彰台に立った。比企野智子監督（44）は「県としていいスタートが切れ、役割を果たせた」と安堵の表情を見せ

た。引き続き会期前競技は11日、潮来市でオープンウオーターが行われ、本県から男子・小野吏久人（法大）と女子・小池優媛（日体大）が出場する。

（小池忠臣、志賀敦文）

2019年(令和元年)9月10日 1面 茨城新聞掲載

（転載については、茨城新聞社の許可を得ています。）